

首都直下地震等による新たな被害想定

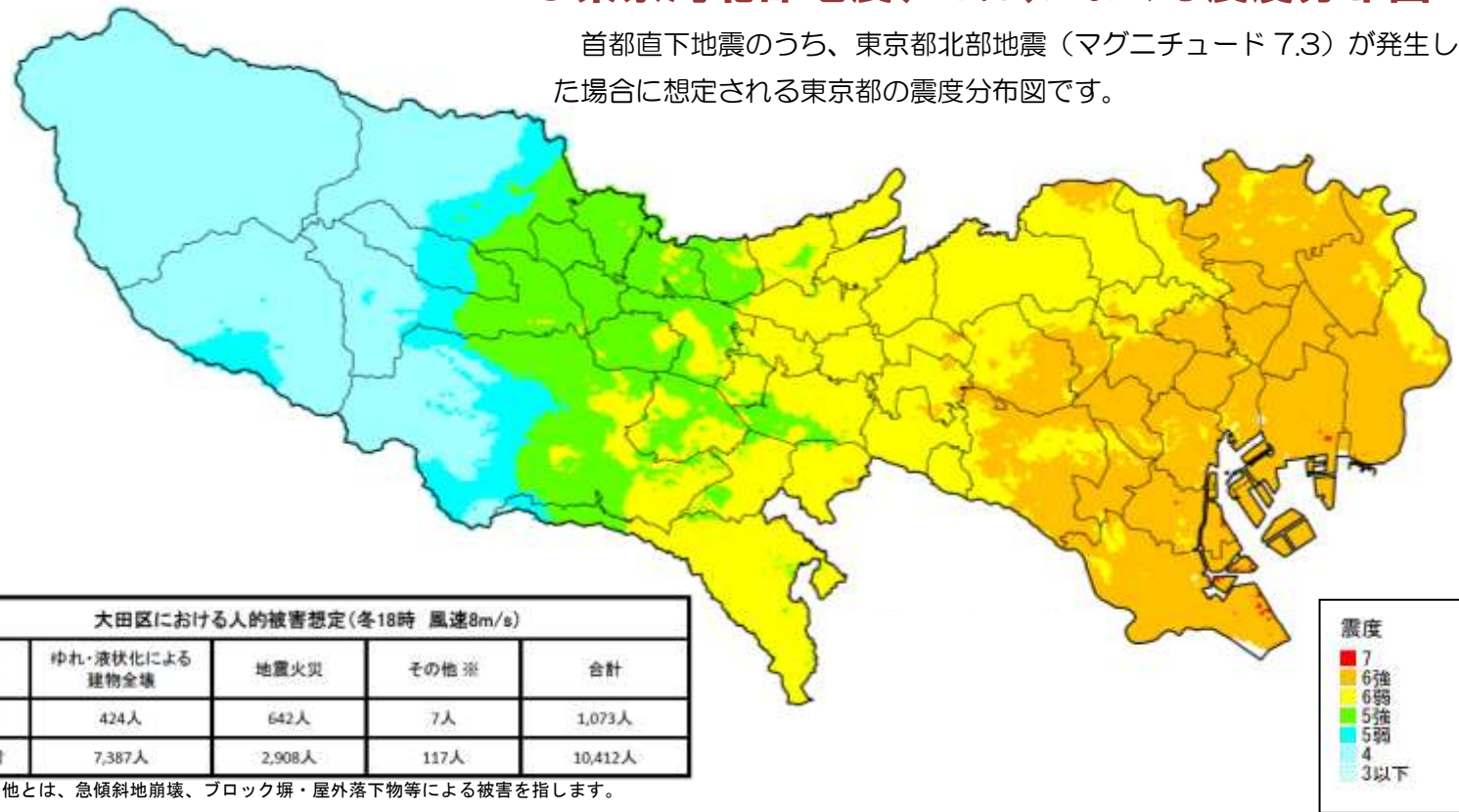
平成24年4月、東京都は首都直下地震等による新たな被害想定を公表しました。

これは東日本大震災を踏まえ、平成18年5月公表の被害想定を見直したもので、東京湾北部地震と多摩直下地震の被害想定の見直しを行っています。

このなかで、大田区の被害が最も大きくなる東京湾北部地震（マグニチュード7.3、冬18時、風速8m/s）の震度分布図を掲載しています。

●東京湾北部地震(M7.3)における震度分布図

首都直下地震のうち、東京都北部地震（マグニチュード7.3）が発生した場合に想定される東京都の震度分布図です。



原因	ゆれ・液状化による建物全壊	地震火災	その他※	合計
死者	424人	642人	7人	1,073人
負傷者	7,387人	2,908人	117人	10,412人

※ その他とは、急傾斜地崩壊、ブロック塀・屋外落下物等による被害を指します。

【参考】気象庁震度階級関連解説表(震度6弱以上)

震度階級	6弱	6強	7
人の体感行動	立っていることが困難になる。	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れに翻弄され、動くこともできず、飛ばされることもある。	
屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛び出すこともある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。
木造建物(住宅)	耐震性が低い建物では、壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。耐震性が高い建物でも、壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	耐震性が低い建物では、大きなひび割れ・亀裂が入るものが増える。傾くものや、倒れるものが増える。耐震性が高い建物でも、ひび割れ・亀裂がみられることがある。	耐震性が低い建物では、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。耐震性が高い建物でも、ひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。
鉄筋コンクリート造建物	耐震性が低い建物では、壁・梁・柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。耐震性が高い建物でも、壁・梁・柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。	耐震性が低い建物では、斜めやX状のひび割れ・亀裂がみられることがある。1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。耐震性が高い建物でも、ひび割れ・亀裂が多くなる。	耐震性が低い建物では、斜めやX状のひび割れ・亀裂が多くなる。1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものが増える。耐震性が高い建物でも、ひび割れ・亀裂がさらに多くなる。1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。

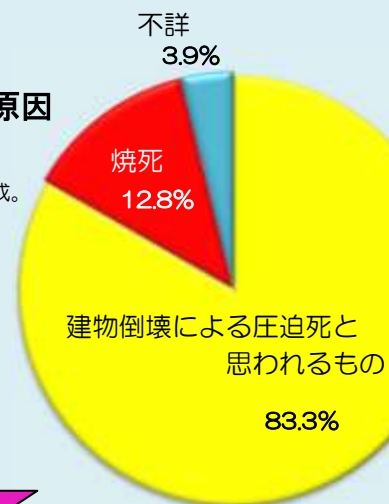
地震の揺れによる倒壊に備えよう！

●旧耐震基準の建築物は耐震性に不安があります。

昭和56年5月31日以前に建築確認を受けた、いわゆる旧耐震基準と呼ばれる建築物は、地震の揺れに対する強度が不足している可能性が高くなっています。阪神・淡路大震災では、旧耐震基準の建物が大きな被害を受けました。

※阪神・淡路大震災の死亡原因

「神戸市内における検死統計(兵庫県監察医、平成7年)」より作成。



建物の耐震化が重要です！

●大田区の耐震化事業をご活用ください。

- 旧耐震建築物の耐震化助成事業**
 昭和56年5月31日以前に建てられた建築物(旧耐震建築物)の耐震診断、設計・補強工事に係る費用の一部を助成します。
- 分譲マンション耐震化アドバイザー派遣**
 耐震診断や耐震改修工事に関して広範な知識と経験を有する一級建築士を理事会などの集いに無料で派遣し、分譲マンションの耐震化に関する助言等を行います。
- 耐震シェルター等設置助成事業**
 東京都都市整備局が公表している耐震シェルター・耐震ベッドの設置経費の一部を助成します。

●まずはすぐにでもできる安全対策から始めましょう！



1. 家具の転倒や落下を防止する措置をとる

家具と壁や柱の間に空間をつくらないようにしましょう。またL字型金具や重ね留め用金具、家具の転倒防止シートなどを利用して転倒や落下を防ぎます。

2. 家具を安全に配置する

できるだけ人の出入りが少ない部屋に家具をまとめましょう。寝る部屋に家具を置く場合は、体の上に倒れてこないように配置し、転倒防止策をとりましょう。また、棚の上にはあまりものを置かないようにしましょう。

3. 棚の中の収納を工夫する

本棚や食器棚に収納する際には、重いものを下、軽いものを上に収納すると、家具が倒れにくくなります。また、棚板に滑りにくい材質のシートを敷くとより効果的です。

※このマップに関するお問い合わせ

大田区役所 防災まちづくり課 耐震改修担当

TEL:03-5744-1349 FAX:03-5744-1526